



港工同窓会 ニュース

第 6 号

平成19年 4月20日 発行

発行責任者 前田武男

十九年度定期総会開催にあたって

港工同窓会会長
港(全)三期電力科卒 前田 武男

母校港工業高校の廃校より四回目の定期総会を迎えました。この間、港工同窓会は、後継校六郷工科高校に、ご迷惑をかけながらどうにか活動して参りました。

六郷工科高校は、この春、最初の卒業生を目出度く社会に送り出しました。卒業生たちは、やがて、後輩も続いて、立派な、同窓会を組織し母校の伝統を築いて行くでしょう。

昨年六月十日に開催された十八年度定期総会では、懸案の「会則改定」を提案し、協議いただきました。

その際、会員の指摘により保留された、「第二章、第四条、一項」、前身校の校名表示に不完全な点があり、理事会にて精査協議の結果別掲のとおり改定し今総会に再提案します。

引き続き行われた懇親会は、馴染みの深い「芝パークホテル」に会場を移して、従来とは趣を変えて、アトラクションを盛り込んだ内容となり、華やかで楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

九月二二日に、副会長森川洋佑氏が急逝されました。心からお悼み申

上げます。森川先生は、本会が永い休眠から醒めた再建作業に準備段階から参加され、会の運営を支える重要な存在でした。まもなく迎える、再建二〇周年の重要企画を検討の最中でもあり極めて残念です。

九月一七日、高野連の新人戦参加の六郷工科高校の野球部を応援しに昭島球場に加藤理事と参りました。対戦相手はブロック最強の日大鶴ヶ丘高であり、大差で敗れはしたものの果敢なプレーに拍手を送ると共に夏の大会での健闘が期待されます。

十月二八日、二九日の両日は、六郷工科高校の文化祭が開催され、港工同窓会をアピールすべくブースを設置しました。港工の歴史を遡ると最古の前身校が創設されて百年になります。その間の資料、アルバム等々を展示したことで訪れた同窓生は感激しておりました。

このような一年間で、我が同窓会は、会則の整備が済み、来年の再建二〇周年に向けて記念企画を準備しております。会員諸氏の、より一層のご支援ご協力をお願い致します。

◆平成19年度定期総会

今年度の総会は、六郷工科高校で総会、芝パークホテルで懇親会を開催します。懇親会では楽しい企画も準備しておりますので、同級生やクラブの先輩、後輩に声を掛けて沢山の方々が参加されますようご案内申し上げます。

記

日時 平成19年6月9日(土) 13時(幹事の方は12時までに集合下さい)
場所 総会 13時より 六郷工科高校 2階会議室にて
(京浜急行「雑色」下車徒歩3分)

懇親会 16時より 芝パークホテル 新館2階ロビールームにて
(都営地下鉄「御成門」又は「大門」下車4分)
(JR「浜松町」下車徒歩8分)

会費 10,000円(総会のみの方は無料です)

内容 平成18年度事業・決算報告、新役員承認
平成19年度事業計画・予算案の承認・その他

※会費は振込用紙の金額を賛助金共12,000円に訂正し振込願います
※準備の都合上、5月末日までに同封はがきと振込み用紙にて、出欠及び転居等

近況や想い出他のお便りをお願いします。

開校から3年間のデュアルシステム

東京都立六郷工科高等学校

副校長 諏佐 眞一

平成16年4月に第1期生の入学生を迎え、その生徒が初めて平成19年3月に卒業しました。入学してきた生徒の中には、入学時「何故、企業実習に参加しなければならぬのか？」と言った、デュアルシステムの教育制度を全く理解しないで入学した生徒も多くいました。そのため初めての7月の企業実習では、学校での事前の指導が十分でないことから企業実習受入企業先から苦情を投げかけられ、企業に謝罪に行くこともありました。担当教員は直ぐに企業訪問をして指導改善を行い、次の9月企業実習からは何とか大きな課題もなく進めることができるようになりまし



支援をいただきました。

デュアルシステム科に直接関わる教員は、開設当時、私を含めて6名でスタート、現在12名が関わっています。全く前例のない全国で初めての教育制度のため全てが新しい取組ばかりでした。教員の世界で協力企業を探すために企業訪問をすることは、希なことですがデュアルシステム科に配置された教員は今までの意識を変えて企業訪問によく出かけてくれました。お陰で企業からの信頼関係も生まれ、企業の温かいご理解をいただき多少の課題があっても引き受けていただけるようになりました。協力企業は、現在160社余りモノづくり企業からご賛同を得ることができました。企業から「ウチに生徒が来ないではないか？」とお叱りを受けるほどとなり、平成18年度から1年次生が7月の企業実習先の企業選択をする前に企業見学をさせていただくこととしました。また、



2年次からの長期の企業実習期間中に保護者が企業で授業参観をさせていただけき、保護者の理解も深めていただきました。



開校と共に文部科学省の「日本版デュアルシステム」研究指定校となり全国のデュアルシステムの推進校として全国から学校視察をしていただき本校の取組、成果を発信しました。他府県の教育委員会から本校を参考にしてデュアルシステムの教育制度を取り入れる報告を受けています。外国の教育関係者からの視察も受けることも最近では多くなりました。このようにデュアルシステムの教育制度は全国的に広がりがつつあります。

昨年の9月には大田区産業振興協会のご支援で大田区産業プラザを会場として「企業実習生徒成果発表会」を近隣地域に発表することができました。その場では、予想以上にデュアルシステムに対する期待が大きいことが分かりました。

中学校 生徒・保護者にデュアルシステムを理解してもらうために中学校訪問などをしました



た。しかし、入学者選抜の応募倍率が上がらず平成18年度は定員を満たすことができませんでしたが、平成19年度は応募倍率約1・4倍となりました。そのため入学生の今後の成長に大きな期待をしています。卒業生の進路も決まり、企業実習に参加した企業に約5割の生徒が就職することとなりました。最近の工業高校生のモノづくり企業への就職の割合が2割程度であることからデュアルシステム科の卒業生は非常に高い割合でモノづくり企業に就職しました。港工業高校同窓会の皆さんも多くの方がモノづくりに関わる仕事に就かれています。デュアルシステム科卒業生は、皆様が身に付けた技術の後継者として期待をして下さい。また、工業高校の同窓生としてご支援をこれからも宜しくお願いします。

愛宕の緑さわやかに

港(全) 10期電気科 野口 眞宏

昨年4月20日発行の港工同窓会ニュースに、8期卒業のバスケット部、赤川様と海野様の先輩お二人が寄稿されていました。10期卒業の私もバスケット部に籍を置き、1年間ともにボールを追いかけた仲です。非常に懐かしく思い筆を執りました。

バスケットボール部(当時は籠球部と言った)ではロードワークと称して毎日街を走った。愛宕山のトンネルを抜け狸穴を左折、飯倉から、東京タワーの工事現場を左に見て赤羽根橋を抜け、金杉橋へ、左に折れて増上寺の前を通り御成門、都電通りから一本入り慈恵医大堀沿いの道をダツシュ、校門に入る。

愛宕山の石段登りもきつかった。85段の男坂を登り、女坂を下る。練習の成果を試す試合は、憲法大会、国体予選、新人戦、理科大招待試合、城南高校との定期戦などがあったが戦績は芳しくはなかった。

映画部から割引券を貰い35円の2本立て映画を飛行館ホールでよく観た。友人と連れ立って日比谷公園を散策し、いろいろと語り合った、土橋から銀座に出て街を闊歩する。高校生には少し贅沢で洒落た寄り道だ

芝郵便局でアルバイトをしたこともあり、また練習中に先輩が足を骨折し肩を貸して慈恵医大に連れて行った。このように学校を中心にあの土地に溶け込み、私の人生の中で最も濃密で活気溢れる青春の3年間であった。

こうした若者の明るさの半面、入学した昭和30年頃は、まだ戦後の物心共に疲弊した暗い影を残していた。

当時は産業の勃興も緒についたところで、私の家庭などは兄が戦死、兄弟も多く経済的にも裕福とは言えず、技術の基礎を学び早く社会に出て家計を助けねばならなかった。校友にはこのような境遇の方も多かったように思う。

国の政策も産業を勃興し、輸出に依る外貨獲得が最重要課題であった。そのような中で短期間に技術者を養成し、社会に送り出すことは有効効果的な方法であった。生徒も教師もある種その使命に燃えて、真剣に実習に取り組み熱い情熱を傾けた。事実同校は有為な人材を多数排出した。

私の友人達は、中堅技術者として

大いに社会に貢献し目的を果たした。また受け入れた会社の側も中堅技術者として力を発揮すべく教育もしてくれた。それに加えて、時代も高度成長期に向かう追い風も手伝って、オイルショックやバブル崩壊などの特異な時期を除き順風満帆に多くの友人は密度の濃い、充実した技術者としての仕事を終えて定年を迎えた。

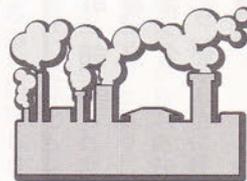
考えてみると、港工高での3年間は起点となってたくさんの方と付き合いが始まった。バスケット部の同期7名とは毎年会い、事あるごとに集まっている。先日、几帳面な幹事がこの集まりが100回を越えたと教えてくれた。

六平先生(故人)が中心となって主宰する同人誌『ドン』を毎月拝読している。六平先生亡き後を同人である宮本先生、田島先生が健筆を振るっている。

私は小さな会社を経営している。あるお得意様の会社に本校出身者が大勢いて、港工高OB会があり、私も末席に加えて頂いている。このように港工との係りは脈々と続いている。

港工高が閉校となったことは残念であるが、長い人生には大切な物を失うこともある。また逆に孫の誕生など大きな喜びも与えてくれる。

愛宕山の新緑を思い浮かべると、当時の遠く懐かしい思い出が私の記憶の中にとろりと残っている。



平成19年度定期総会

恩師出席予定

- 関 透 (第12代校長)
- 和泉 勲 (第14代校長)
- 木村 武敏 (教頭) 全
- 大谷 忠雄 (電子) 全定
- 加藤 琢二 (電気) 全
- 菅原 彪 (電子) 全
- 杉野 栄一 (自動車) 全
- 土屋 義昭 (用務) 定
- 豊山 州生 (自動車) 全
- 福田 幸雄 (数学) 定
- 西原 要四郎 (教務) 定
- 広橋 恭二郎 (電気) 全
- 前嶋 正人 (電気) 全
- 本杉 不二夫 (電子) 全
- 両角 亮一 (数学) 全
- 渡邊 國男 (理科) 全
- 山田 信幸 (電気) 全

(敬称略)

硬式野球部を応援して

会計理事 旧職員
港(全) 3期電力科 加藤 琢二

母校港工業高校の廃校後高校野球の試合を観戦する機会が無かったが、或るきっかけから昨秋その機会をえた。

後継校、六郷工科高校野球部が、昨年夏の甲子園大会の東京予選に出場したのだ。二〇〇六年七月十日の、対朋優学院の試合は残念ながら観戦できず、翌日の朝日新聞に掲載された、写真入の大きな記事で知ることになった。試合は、九回の二死に同点にされ、十回に逆転されてやぶれ大会初勝利を逃したエースの残念さが伝わる記事であった。

秋の新人戦は、九月十七日。相手は、昭和校に五対一で勝利しているブロックで最強の日大鶴ヶ丘校である。

当日、早起きして、前田会長と待ち合わせの、青梅線東中神駅に向けて出発した。ふと港工野球部を指導していた頃を思い出す。当時ほとんどの休日は早朝、球場に出かけたものだった。午前九時、手土産の飲み物を携え、前田会長と二人、市営昭島球場に向かう。六郷工科高校の選手諸君はすでに、試合前のセレモニーに入っていて会うことはできず、スタンドに向かう。何人かの六郷工科の先生方が見えていた、挨拶して近くに陣取った。相手校は、選手も応援も形を整えていると感じた。

試合開始の挨拶で、我が方の人数が、やや足りないことがわかった。秋には二年生と一年生で構成するから当然手不足になる。我が港工のときも、ほとんど毎年のように味わった悩みだったから理解できた。

試合は、やはり攻めている時間は短く、守っている時間は長かった。攻めてはいまひとつで得点を逃し、いまひとつで守りきれずに毎回失点

を重ねた。ついに五回、0対10×の大差でコールドゲームを宣告されてしまった。

敗戦の将にお会いするのも、兵に面会して励ますのも、我が身の体験から憚られ、部外者はこの時点で失礼して会場を辞すことにした。

彼らはこれから、原点に戻って、基礎をかため、対外試合を数多く体験し、夏の大会に良い結果を示してくれることであろう。早稲田実業でさえ、ブロックの優勝を失敗したのだから、同じ高校生として、努力次第と私は考える。六郷工科高校野球部の諸君の精進と夏の健闘を期待するところである。



懇親会の司会に

トーク&マジックショー

「西乃螢嬢」登場!

昨年は新しい趣向を試行したところ、華やかで楽しいひと時を過ごすことが出来、好評を戴きました。

本年も西乃嬢の出演を予定しますので、従来と違った雰囲気の中でご歓談が出来ると思います。

今回は初の試みで、事前に先生方のご都合を伺いましたところ、右記のように出席予定のご回答を戴きました。

母校の校舎建物はそのまま警察庁舎として使われており、外観は残っています。愛宕山他周辺の散策はいかがでしょう。

校友お誘いのうえ、皆様多数のご参加をお待ちします。

.....

なお、来年は同窓会再建20周年であり、特別記念事業として、テレビ等で活躍中の世界的マジシャン、テールマジックの「前田知洋氏」(港36期C卒)の出演を計画していますので、ご期待下さい。



返信ハガキからの近況・お便り (平成18年度分)

旧(教頭) 定 市川 勝緒

同窓会ニュースの「デュアルシステム」は大変興味ぶかく読ませて頂きました。今後の成果を期待したいです。

旧(電気) 全 小又 良一

老化が進み、常々体調不良ですが、しぶとく生き残っております。

港工での教師生活は数十年、夢のような良い思い出ばかりです。

校舎、中庭もフランスのリセにそっくりなのも素晴らしいことです。

旧(体育) 全 吉野 尚也

25歳〜29歳まで勤務した港工高が閉校となり淋しい限りです。現在67歳になりましたが、元気で東京女子体育大教授として楽しい日々を送っています。大学出入りの業者に港工高卒業生(19期)がおられ、時折懐古談に花を咲かせています。

旧(数学) 全 田神 仁

都立杉並工業高校の校長になりました。港工業で学んだことを工業高校のために生かせるので喜んでいきます。

港工業に負けないような学校づくりをしたいと思います。

旧(機械) 定 三浦 時生

航空高専で教員生活最後の1年を嘱託として働いています。自分が教員になったのが伴校長のとき、その伴校長も亡くなられたと会報で知り、あれから40年当然のことかと思いつつ、時の流れを実感させられています。

旧(保健) 全 関口 敦子

梅の頃になるといつも愛宕神社の境内がTVニュースに流れ、懐かしく思っております。

旧(電気) 定 真下 正之

港工高は私にとって大切な、大切な思い出の場所です。いつまでも港工高を思い出せるよう、同窓会の発展を心より願っています。

旧(自動車) 全 国分 輝雄

昨年度から六郷工科に勤めています。教育設備もスタッフも港工の仲間です。オートモビル科8人中4人が元港工のメンバーです。

旧(英語) 定 福井 祥

唯今、中国の長春で日本語を教えしております。

旧(国語) 全 橘 とよみ

港工から六郷工科と名を変えても脈々と「港工」の名が残っているのが、たのもしく、うれしく、なつかしく思われます。

旧(事務) 安田 憲俊

歴史ある港工同窓会が継続し、これからも多くの同級生の支えとなることを期待します。

都立高校の統廃合で多くの方々が母校を失っていることを考えると、残るのは同窓会しかありません。

卒業生たちの心の寄り所として、ご苦労はあると思いますが頑張ってください。港工の歴史を伝えるためにも宜しく願います。

高輪(二本) 4期M 小暮 喜美雄

高輪卒業の年、東京写真専門学校(現東京工芸大)進学。同年12月太平洋戦争に突入、戦時短縮で昭和18年9月に卒業し10月に陸軍飛行学校入校。半年の猛特訓で操縦将校となるも約35%の同期戦友が戦没の中、幸いにも生還復員。東京空襲で自宅、家財全焼の為、戦後は父の郷里の群馬県に住み、昭和25年に小西六写真工業に入社。以後、工場から営業で種々の体験を経て平成元年最終リタイア。現在83歳です。

高輪(一本) 1期M 小倉 東太郎

高輪第一本科電気科1期卒業生47名。全員80歳を過ぎ、生きている者26名、外出して歩ける者は、その半分ぐらいです。

現在の学校の大学への進学が気になります。その昔、私達のクラスは47名の内、国立へ4名、都立へ2名、私学へ4名が進学しました。

高輪(一本) 2期MB 清水 譲

もう私ぐらいの年になると同級生もいないと思います。戦争で散り散りになってしまったのが残念です。皆様のご発展を陰ながらお祈りします。生存している限り会費はお付き合ひさせて戴きます。

麻布(一本) 3期M 中村 義壽

同窓会に参加したい気もあります。が80才になるとアルコールを飲む気力もなくなり参加も億劫になります。

港(全) 1期E 青沼 弘

小生、昭和18年麻工一本電気科入学。戦争中での御殿場、板妻での軍事訓練、麻布三田無線への学生勤務奉仕等々。懐かしさいっぱい。麻工校歌の中の「職場になくはならぬ人」の一節をモットーに停年になるまで電気畑一途に現在まで過ごしてきました。

港(定) 4期E 笠井 智

小生も今年3月に喜寿を迎え、港工高卒業54年も経ち、母校が無くなり淋しいですが、同窓会は継続との事。友人も何人か亡くなりましたが何人かの残党兵と年賀のやりとりをしております。

港(定) 5期C 山内 一次

何十年も同窓会の開催案内を待ち焦がれて2年前やつと同窓会に出席して見たら、学校が無くなり出席者も先生と幹事が多く、かんじんの腹を空かして通った当時の仲間が居ない。我々の仲間は同窓会そのものに関心が無いのだろうか、寂しい事だ。「ああ 港工業高等学校は無い」

港(定) 7期M 銀木 太助

今年の4月に「かすみがうらまらソン」で42・195kmを6時間5分で完走しました。72歳です。

港(定) 9期C 佐田 一郎

子供の頃より結婚するまで大田区に住んでいて、蒲田、羽田は地元だったので六郷は懐かしいところです。港工同窓会ニュースを拝読させて頂きまして、あの懐かしい愛宕のことが昨日のことのように思い出される今日この頃でございます。

港(全) 9期C 上倉 健二

同窓会ニュースなつかしく拝読しております。賛助金の減少は心配です。

港(定) 10期M 長谷川 弘

会社定年退職後8年になります。が、現役時から都内某専門学校の非常勤講師を、お引き受けし15年になります。若い学生から元気を頂いておりゴルフのハンデも6で頑張っています。

港(全) 12期E2 伊藤 操

ちっぽけな会社を始めて35年余り、いまだに小さいけれど、元気に働いていますよ。

空調内装工事をやっています。まだ引退できません。

港(全) 16期M 小柳出 裕

昨年7月に41年間勤務した(株)東芝電池を定年退職しました。本年1月より群馬県安中市に単身赴任で再就職しています。

港(全) 18期A 相川 浩

同級の田中二明君が3月に2年の期限で中国へ渡りました。58歳にして第2の人生でしょうか。

中国ではトヨタの販売店の立ち上げを各地で行うそうです。チャレンジ精神に脱帽です。クラスのメンバー18人で壮行会を行いました。

港(全) 18期E2 渡辺 秀三

六郷は近くなので、いずれ行ってみたいと思っています。

港(全) 20期E1 小島 賢治

港工は自分にとっても青春のひとときの大切な思い出のある学校です。最近、学校の前を通るときがあり、その当手を思い出しました。皆さん、お元気ですか！

港(定) 22期MA 桑原 敏幸

閉校以来、愛宕の校舎跡地はどうなるのか、六郷工科高校はどんなところなのか見たいと思っていました。この機会に総会懇親会に参加し実現したいと思えます。

宇都宮では昨年12月に地上デジタル放送が始まり、素晴らしい画質と文字情報・番組参加を見て感激しました。我ら工業系を学んだものとして誇らしく思います。

港(定) 23期A 川原 一男

新聞楽しみに見えています。地方の為なかなか出席できませんが、時々この年(54歳)になると懐かしく思い出されます。

仕事や子育てが落ち着けば必ず出席したいと思えます。クラスでの同窓会には何回か出席しました。

港(全) 39期A 小林 光明

港工業高校の伝統を残すため、諸先輩方のご努力、尽力に頭がさがります。

港(全) 39期E1 長谷川 幸一

会報を拝見しますと20期以前の先輩の方々の活躍が目立ち恐れ入るばかりです。私どもは毎年気の合うメンバー10人ぐらいと担任していたただいた恩師の先生で、クラス会と称して飲み会を行っています。

今回は所用のため欠席ですが、次回是非出席させていただきます。

港(全) 44期C 武佐 英典

同窓会ニュースの送付ありがとうございます。総会にはロードレース参戦の為、出席できません。電子科出身ですが、今年で丸8年、レースに打ち込んでいます。

港(全) 47期E 斉藤 眞

今年で30歳です。今まで色々ありました。今年で色々とあけないと思っています。

六郷の生徒諸君も誇りを持って頑張ってほしいものです。

港(定) 55期E 名倉 道夫

出席するつもりでしたが家の都合で出られず残念です。またよろしく願います。

二十周年記念誌より

円歌師匠との因縁

港(全)5期C 新見 哲一郎

新宿駅に降りたのは学校が終わってからのことなので冬の日には既に暮れて、あたりには電灯の影が射し、家路を急ぐ人の群れは右に左に大きく揺れながら気ぜわしい雰囲気があったりを支配していた。自分は校章のついた帽子をしつかりと被り、学用品で膨らんだ古いズツクの鞆を両手でぶら下げて人波に揉まれていた。自分はこれから行く寄席の末広亭のことを考え、そこで会うことになっている三遊亭円歌師匠のことを考え、そして自分の服装のことを考えたとき、急に恥ずかしい気分におそわれた。一度家に帰って帽子や鞆を置いてから来ようかと思いはしたものの、約束の時間までには、とてもそれを行うだけの余裕がなさそうなので、とうとう諦めてそのまま末広亭に行くことにした。

夕空に浮き彫りにされていた伊勢丹の広告塔が見えなくなるあたりまで来たとき、街の様子が異様なのに気がついた。あでやかな光彩を放っているネオンランプに圧倒され、辺りを見回すとパーやキャバレーが軒並みに続いていた。通行人の服装も足取りも気忙しい殺気立った雰囲気がないばかりか、かえってのんびりとして粹なものすら感じさせた。自分は自分の服装がこの場所に不似合いであることを無視するわけにもゆかず、あまり人に気付かれたくない気持ちで道の端っこを小さくなって歩いていった。

まもなく左手に電灯を浮き彫りにした末広亭という文字を見つけたときには、ひとまずやれやれという気がした。そばまで来てみると映画館の切符売場のような小さな窓口のついた小屋の横に大きな透かしガラスをはめ込んだ扉があり、それに入出口と書いてあるのが目についた。円歌師匠からの電話では「夜はここに出ますから必ず居ります。そこでお会いしましょう」という事だったのであるが、どうやって師匠に会うのかその手立てが少しも分らず、扉の前を二度三度行ったりきたりしてみた。とにかくあたってみるのが一番だと思い、扉を押し中に入れてみると、印半纏を着て煙管を吹かしながら扉のすぐ側に腰掛けて自分の方を見ている五十格好の男の人がいた。ハッとした自分は帽子をとって丁寧に頭を下げて円歌師匠に会いたい旨を告げたところ、きさくにもすぐに立ち上がって、裏手の楽屋口へ行くように教えてくれた。

裏通りに回って楽屋口はどうなっているのだろうかと思いつきながら歩いていると、すりガラスのはまった格子戸の側に「末広亭楽屋口」と書かれたそれほど大きくもない表札が目についた。ガラッと格子戸を開けて中に入ると、小さな三和土があつて、いくつかの下駄と靴が置いてあつた。目の前の障子の向う側から人の声が聞こえてくる。それも単なる会話ではなく、女の人の涙にむせぶ、途切れ途切れの、割合大きな声と、若くはなさそうな男の人の落ち着いた声とである。自分はなんだか意味も分らずに、学生が聞いてはいけないことを耳にしたような気がして、なんと声を掛けてよいものか分らず、その場でもじもじしていた。しかし誰も取次ぎに出てくる様子もないので思い切って「ご免下さい」と声を掛けたところ、すっと障子が開いて、和服に身を固めた男の人が両手を敷居について頭を下げた。自分は声が少し大きすぎたのではなかったかしらと思いつきながら、再度円歌師匠に会いたい旨を伝えたとこ「かしこまりました」という丁寧な返事とともに再び障子は閉められてしまった。男女の声がやんだと思つたら、やがて障子が開いて、円歌師匠が出てきた。そのすぐ後から女の人の顔だけがぬつと現れて「変な所へ連れ

て行かないでくださいよ」と叱り付けるような調子で思いも寄らぬことを言った。自分は一瞬唖然としていたところ、師匠は「学生さんに向かって失礼なことを言うものではないませんよ」といって障子をビシヤリと閉め切ってしまった。自分はふさふさとした毛の付いた黒いコートに身を包んだ円歌師匠の後に従いながら、「今見た人は円歌さんの奥さんかしら」と考えてみた。師匠は黙って歩いていくので自分も黙って足を運んでいった。

自分が三遊亭円歌師匠を知ったのは、三年生の送別会に芸能人を呼ぶことを考え、NHKに相談に行ったときに、偶然に会ったことから。この文は、最後の打ち合わせをするのに円歌師匠が忙しかったので、自分の方から末広亭へ出かけたときのことです。ラジオで落語を聞くのは好きであった自分も、寄席には子供の時分に祖母に一度連れて行つてもらっただけなので、この時には寄席にいくこと自体が恥ずかしかったのを覚えています。今にして思うと支配人がいたにも拘らず、直接円歌師匠と日取り、出し物それに出演料までの打ち合わせが出来たのは自分が学生であったことによる先方の好意ではなかったかと懐かしい気がします。それ以後、毎年卒業生送別会に

「五十周年記念誌より」
在職中の思い出あれこれ

旧（英語）全 六平 巧宣

都立港工業高校は戦後私がお世話になった唯一の高校である。その前身は高輪・麻布・渋谷の3都立工業学校を統合し、昭和21年4月に発足した都立高輪工業学校で、私の採用は初代早坂朝太郎校長が一度の面接ですぐ決定され、私はほんとうに感激したことを思い出す。当時は採用などの人事権が校長にあったことなど、私は全くしらなかった。就任年月日は21年6月30日。私が高輪北町のおんぼろ校舎の中庭で、新任の挨拶をしたのは第2学期始業式のことであつたかと思う。私はいつのまにか熱っぽく語りかけ、かなりの長時間に及んだことを未だに忘れない。生徒たちの顔がだんだん真剣味を帯びてきたからである。

翌22年4月から、私は電気科5年2組のクラス担任。1組は電気科の山崎忠治先生。4月下旬には、新校舎に決定した旧愛宕高等小学校に生徒たちも職員も机・腰掛けなどを持つての大移動。6月にはそのお祝いの芸能大会。また11月には輪工芸能祭（於中央労働会館）。とくに後者は大好評で、国語の若い新任の細川

敬之先生の熱心な指導の成果であつた。

23年3月、旧制5年の生徒たちがどれほど卒業したかは全く記憶にない。4月には都立港工業新制高等学校と改称。旧制5年で卒業しなかつた生徒たちは、新制の3年となり、翌年3月港工高第1回卒業生として巣立っていった。敗戦の世相の中で、1年または2年の間教室では英語を教え、時には生きることや学問の大切さを語り聞かせただけに、私には最も係わり深い卒業生諸君となつた。

23年度から、私はクラス担任を解放され、14年間生徒課に属し、主に生徒会活動全般を指導した。この長い間、生徒課長は数学の沢木敬吉先生で、先生とは最初から意気投合し、勢い私は全力投球する結果となつた。ここでは、この年開催が実現した学校祭に触れてみたい。およそ「祭」と呼ぶからには、私はクラブ関係の展示会のほかに、どうしても演劇・音楽などの芸能祭を持ちたかつた。

その点、4月には待望の演劇部が誕生し、部員たちは燃えていたので、私は今年こそチャンスだと思つた。そして最終的には、昇格記念第1回学校祭として発足。10月28日、初日の運動会（於芝公園グラウンド）は大変な盛り上がりで、翌年には第2回運動会として分離。2日目は球技大

会（全・定合同野球大会、於芝公園グラウンド）。最終日は芸能祭（於慈恵大学講堂）。注目は演劇部の長塚節の「土」。高校生にはどだい無理な出し物だが、三幕四場に圧縮した出来栄えを買い、顧問の私の責任で演らせることにした。本番では、午後の舞台がいくつかの見せ場を盛り上げ、好評を博した。私は感謝の気持ちでいっぱいだった。第2回学校祭では、初めての展示会の方が観覧者があまりにも少なく、反省の結果講堂の演壇を組立舞台にして

広げ、第3回以降はすべての催し物を校内で開催し、大変なにぎわいを見せる年中行事となつたのである。37年度から4年間、私は図書館長ということで3階の図書室に上がった。私は全くの素人なので、すべて司書教諭の岩城芳子先生にお任せした。最初の年、「図書館ニュース」の発行をみる事ができたのは、図書委員の生徒たちへの私の助言がいくらか功を奏したのかもしれない。

41年度は私が生徒課に戻り、図書館生みの親の国語の棚橋茂男先生が再び図書館長。港工20周年にあたる年の伴義夫校長が20周年記念誌の編集を棚橋先生に託されたのは賢明であつた。11月初旬には第19回港工祭、次いで定時制愛宕祭。そして20日には虎ノ門の国立会館において

は、円歌師匠も本校へくることを楽しみにしていたようです。昭和三十五年冬、円歌師匠は交通事故にあいまして、昭和三十六年には来られなかつたそうです。なんでも三十八年三月十八日の送別会に来てくれたのが最後のようです。翌年の八月二十九日、円歌師匠は、その最も芸の円熟したとき惜しくもその生涯の幕を閉じました。



盛大な記念式典。壇上に居並んだ元校長の早坂朝太郎・石引一朗・赤池憲・本田功の諸先生はじめ、後援会・PTA・同窓会の方々。これら歴代の校長並びに関係者のご尽力で、旧校舎は改修整備され、機械及び自動車の実習工場も隣接地を買収しては新たに建設され、整備もとのい、ようやく工業高校らしい学び舎になつたのである。中でも、ここ愛宕の地に港工高の基礎を築かれた初代早坂校長の功績は大であつたといわねばならない。記念誌の編集は難航したが、棚橋先生の緻密なご努力で、結果的には隅々まで神経の行きとどいた出色の出来栄であつた。（編集部注・六平先生は平成12年7月逝去されました）

逆境に、打ち勝つ事こそ栄光の未来が有るのだ！

港(定) 9期電気通信科 山元 稔

昭和31年 私達は、港工業高等学校二年生でした。今年も心に残る講演会を開催しようと生徒会の会長吉浦、副会長小川、鹿野、庄司、大森、鈴木他で計画を立てた事を思い出す。

「昨年は、理科系大学の助教にお願いしたので、今年は体育系の講演をしたい」と意見は一致、では講師は？など諸々行詰まっていたところ、体育部長の鹿野君から体育顧問の楢守先生に相談しようと提案、レスリングの八田一郎先生の講演が実現したのです。タイトルは、表題の通りで、全生徒が感銘して聞き入ったのを鮮明に思い出します。

今にして思えば、私たち二部の生徒にとりまして、その後の社会人として常に大なる勇氣と闘志を与えられました。と言う忘れられない思い出です。

当日は、全校の先生生徒が講堂に集合、常日頃は私語でザワザワとした雰囲気なのが、今晩は、シーンとした状態、まさに水を打ったような静けさでした。

流石は大先生の貫禄、いや生徒全員に上られる姿勢は、背筋はピンと伸び、軽やかな足取りで歳を感じさせない、その上六尺を超える長身でした。

忘れられないお話は、昭和31年へルシンキのオリンピックで日本レスリングチームは大活躍したこと。それまでの日本チームは、昭和27年戦後初めてのオリンピックでは日本レスリングチームは惨憺たる成績で、その時の水泳チームもしかり、古橋、橋爪選手以下とくに峠を過ぎた選手団で、あれが4年前であれば、2着で金銀であったろうかと。レスリングも柔道家を急遽選手として出場させたのが敗因だ

そうです。私は、水泳の1500m決勝で古橋選手が8着でのゴールを、短波放送を聴きながら、涙が滲んできたのを思い出します。八田先生は、次期オリンピックに

向け、強化チームの総監督として指導された頃は、クーラーなど高級ホテルでしか無い時代、合宿所での寝食、夏の夜は暑くて寝苦しいからと言って、窓開け、扇風機などは使用禁止、練習、練習で綿の様に疲れた体は、暑くて眠れない理由がない。眠れないのは、練習が足りない証拠である。眠れるようになるまで練習しろと、もの凄いな!! 窓開けは、明け方の外気で寝冷えする。扇風機は体調に最も悪い。シーツがびしょ濡れになったら毎日洗い替えればよい。外国の遠征でも宿舎(ホテル)にはクーラーが有ったが使用を禁止したそうです。

「自ら逆境に立ち向かって、乗り越えてこそ、人は心身ともに強くなる」ものであると。このようにして昭和31年のオリンピックで、素晴らしい結果を出せたと、講演は終わった。

体育部長の鹿野君が生徒会を代表して謝礼をお渡ししたとき「今日は私の話を熱心に聴いて戴き有難う」と、私達生徒に笑顔を返してくださいました。講演中は厳しい顔、声でしたが、今は優しい心に戻って居りました。

れました。このような先生だからこそ、選手達が絶大なる尊敬と信頼感を持って、目標を勝ち取る事ができたのだ。と痛感しました。

その後、鹿野君は、楢守先生に呼ばれ、校長室で八田先生から「謝礼の袋を志として戴きます」とおっしゃって中の現金をお返しになられたそうです。又「港高校に是非ともレスリング部が出来る事を期待します。」と、お願いされたとのことでした。

遠い昔の思い出です。

.....

記念誌等の在庫案内について

- ◎創立20周年記念誌 ※在庫無し 昭和41年11月20日
- ◎創立50周年記念誌 在庫有り 平成8年11月30日
- ◎定時制閉課程記念誌 在庫有り 平成15年3月8日
- ◎閉校記念誌(DVD付) 在庫有り 平成16年3月6日

購入ご希望の方は事務局まで、
ご一報下さい。

※最後の卒業式、閉校式典を撮影した40分のDVDがあります。クラス会等にコピーを送ります。

同窓会ホームページ

随時更新します！

理事・HP部会

港(全) 43期 E2 山下 耕作

昨年、会報に掲載した同窓会ホームページも、内容を充実して参ります。

○会報、総会と連動して、会報では伝えきれない情報や、総会の画像など順次更新予定です。

○クラス会等のグループ単位での集まりに使用できる掲示板を作成いたします。

閲覧専用でグループの幹事様より掲載メッセージを頂き、掲示いたします。ご希望の方は下記アドレスにメール、または事務局にハガキ等にて必要項目をご連絡下さい。

☆必要項目

- ・ 卒年、または卒期
- ・ 科(全・定) (先生方は教科をお願ひします)
- ・ 氏名
- ・ 連絡先
- ・ 掲載メッセージ

○その他、会報やHPに掲載できるコラムを募集いたします！

日頃書き留めている思いや日記など、有りませんか？

また、これを機会に回想録を記したい方も歓迎です。

ジャンルは不問です。

左記アドレス、もしくは事務局まで一報下さい。

○HPに関するご意見、お問合せなどがありましたら、左記アドレスにご連絡下さい。

ご連絡先アドレス

atagoyama@minatokou.net

(愛宕山@港工ドットネット)まで

※基本的に卒業生、先生方からの連絡のみ受け付けます。

事務局より

※会報の作成と送付にはかなりの費用がかかります。ホームページの活用をお願いします。

◇クラス会たより

港(全) 4期 C 宮沢 留司

卒業して54年も経ちクラスのメンバーも年配になり、毎年一回のクラス会を楽しみに過ごしています。

港(全) 5期 P 丸山 日出夫

私も毎年クラス会等の会合を開いています。正月は松の内に都内神社巡りや名所旧跡めぐりを行っていきます。会名は5P会です。

港(全) 7期 M 中島 勇

我々「港工高7M会」と称して、毎年クラス会で集まっています。今年も「新橋亭」で行います。出席者も10名程度でだんだん寂しくなっています。

港(全) 7期 E 鈴木 一男

クラス会は年一回の割合で、今年6月7日に都内で開催を予定します。

港(全) 8期 A 岡野 拓造

クラス会は毎年開催し25年間続いております。ここ数年亡くなる方も出てきており残念です。

最期の一人になるまで継続するつもりです。

港(全) 8期 E 岡村 政一

クラス会は、ほぼ毎年開催し、10から12名位は毎回出席します。

港(全) 9期 P 大海 規

9P会(9期電力科)は毎月銀座にてミーティングを行い、10名前後の参加があります。

港(全) 10期 E2 池田 克良

クラス会は田嶋貞雄先生を囲み、年一回(6月)、行っています。

港(定) 10期 E 森田 貞雄

今でも10期生は機械、電気、電気通信合同で同窓会を毎年続けております。高橋光春先生と同窓生が20名ほど集まって楽しい会を開催しています。

港(定) 11期 E 石川 豊

本年3月11日「第21回クラス会」を行いました。参加者は19名で、皆高齢者となりましたが会場では昭和34年代に戻り、楽しい時間を過ごしました。

港(全) 12期 M 小林 保男

毎年6月第一日曜日に新橋でクラス会を開催しております。20人程のクラスメイトが集まり賑やかです。

港(全) 14期 C 守屋 正弘

4月8日にクラス会を行いました。23人が集まり宮本先生も元気で昔に帰った様で、それぞれの思い出を話し、二次会、三次会へと流れました。次回からは年一回4月の第二土曜日にクラス会を開催することになりました。

港(定) 15期 C 鈴木 靖雄

我がクラスは阿部永雄先生を中心に年一回の一泊旅行と数回の飲み会を行っております。

◆事務局からのお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願い

平成18年度の総会案内及び会報は、全員（住所判明者約5,700部）に送付しました。賛助金は621名の方に送金戴き、前年比16%増でした。

毎年減少していた賛助金が、初めて前年より増加し、本年度も12ページの会報を全員に発送出来ることになりました。同窓会の収入は会員の賛助金のみです。会報継続のため皆様のご理解をお願いします。

郵政民営化により振込手数料（同窓会で負担）が高くなりました。
窓口振込 70円 ↓ 100円
ATM機 60円 ↓ 60円

※郵便局のATMを使えば、
①土曜・日曜も振込出来ます。
②同封の振込用紙をそのまま機械に挿入し、金額のみ押せばOKです。
③窓口より待ち時間が早いです。

◎総会会費の事前振込みをお願いします。
受付での現金授受混乱回避等、ご理解ご協力をお願いします。
賛助金振込み用紙を使用し、金額欄の2000円を12000円にすればOKです。（賛助金+臨時会費）

◎卒業生への諸証明発行について

都立港工業高等学校の閉校に伴い卒業生への諸証明の発行事務は都立六郷工科高等学校において受け付けています。
〒144-8506
大田区東六郷2-18-2
京浜急行「雑色」下車
国道沿い徒歩3分
Tel 03-3737-6565
ご不明の点につきましては、東京都教育庁高等学校課
Tel 03-5321-1111
へお問い合わせ下さい。

◎会員数の把握状況

H19.3月 現在

区分		在籍数	確認数 (亡)
正会員	高輪1本	771	89 (74)
	高輪2本	768	48 (73)
	麻布1本	485	164 (112)
	港・定全	3,866	689 (58)
	計	9,773	4,093 (190)
計		15,663	5,083 (507)
特別会員	旧校長	15	7 (8)
	旧職員	626	336 (109)
	計	641	343 (117)

☆平成18年度の収支状況

前期繰越額	3,076,001-
収入の部	1,667,327-
臨時会費	370,000-
賛助金 621名	1,242,000-
その他	55,327-
支出の部	1,665,829-
総会費 50名	582,206-
通信費	683,220-
広報費	215,250-
その他	185,153-
時期繰越額	3,077,499-

☆同窓会会務の連絡先について☆

住所変更の連絡、名簿内容の質問、同窓会ニュースへの寄稿、クラス会他近況等々は下記へお願いします。

記

〒278-0036 千葉県野田市中野台鹿島町23-7
(株)クリーンジャパン内
港工同窓会 松岡 信之
(会計理事 港16期S39.A卒)
TEL 04-7125-6808 FAX 04-7125-6851
E-mail : matsuoaka@minatokou.net

編集後記

母校閉校から3年目が経過しました。伝統と歴史の街の港工同窓会組織も京浜地区の地に新設された六郷工科高校内の施設をお借りしながら、定例理事会の開催と同窓会としての六郷祭への参加を実現し、会運営の活動を推進して来ました。「港工ニュース」第6号も六郷工科高等学校の諏佐前副校長様はじめ会役員・同窓生方々多数のご協力とご支援のお陰をもちまして発行できました。た事心より厚く御礼申し上げます。

なお会則改定(案)は紙面の都合により、別紙同封としたのでご了承願います。

編集時期が3月の年度末になるため、印刷手配が遅れて、各位にご迷惑を掛けお詫びします。

創立20周年誌(昭和41年)、50周年誌(平成8年)の寄稿文を順次掲載したいと考えています。

来年は同窓会再建20周年です。皆様から多くの「想い出」が寄せられると思います。ご披露する方法を考慮したいと存じます。

率直なご意見やご感想を今後とも事務局あてに宜しくお願い致します。

編集子一同